

## I 介護福祉実習の基本的な考え方

介護福祉士とは、「介護福祉士の名称を用いて、専門的知識及び技術をもつて、身体上又は精神上の障害があることにより日常生活を営むのに支障がある者につき心身の状況に応じた介護（喀痰吸引その他のその者が日常生活を営むのに必要な行為であつて、医師の指示の下に行われるもの（厚生労働省令で定めるものに限る）を含む。）を行い、並びにその者及びその介護者に対して介護に関する指導を行うことを業とする者をいう。」と社会福祉士及び介護福祉士法に規定されている。

介護保険制度の施行等に伴い、従来の施設入所型の介護サービスから、利用者の生活の場である地域での介護サービスへの転換が進められ、また、従来の介護施設においても、ユニットケアなどの個々の生活リズムを尊重した個別ケアの普及が進んでいる。さらに、認知症等の介護ニーズにより、きめ細かな対応が可能な介護サービスとして、小規模多機能型居宅介護等の新しいサービスが創設されている。これからの社会においては、障害の有無や年齢に関わらず、個人が尊厳をもった暮らしを確保することが重要であり、介護サービスにおいては、利用者一人ひとりの個性や生活のリズムを尊重した介護（個別ケア）の実践が必要とされている。

この「利用者一人ひとりの個性や生活のリズムを尊重した介護」を実践するためには、介護実習を通し、以下の2点を学ばなければならない。

- (1) 様々な生活の場における個々の生活リズムや個性を理解した上で、個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じた、チームの一員としての介護福祉士の役割について理解する。
- (2) 利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する。

学内での学びと福祉施設等における介護実習の学びを統合することによって、はじめて介護福祉を実践する能力を身につけることが可能となる。

## II 介護実習の目標

1. 社会福祉の精神を基盤に、利用者の人権尊重、QOLの向上を念頭に実習を行い、自己の倫理観を養う。
2. 講義・演習・学内実習で学んだ知識・理論に基づいて利用者との人間的な関わりを深め、利用者が求めている介護ニーズに関する理解力、判断力を養う。
3. 日常生活援助に関する介護技術能力を深めると同時に、介護に役立つ種々の福祉用具や住生活設備機器の知識を学び、その活用能力を養い、介護活動において駆使する能力を身につける。
4. 指導者の指導を受けながら介護計画立案方法や記録の方法について学び、介護過程を展開する。また、チームの一員として介護を遂行する能力を養う。
5. 施設介護実習では、施設の運営や在宅介護との連携ならびに通所サービスにも参加し、要介護高齢者、障がい者等幅広い介護サービス利用者との関わりをもち、現場における体験学習を豊富にして、サービス提供全般における介護の職務の理解を深める。

### Ⅲ 各段階別実習目的・目標

各段階の実習目的と目標を参照

### Ⅳ 介護実習計画

#### 1. 実習の区分・日数・時間数

介護福祉士の国家資格を目指す学生は、厚生労働省の指定科目である介護実習（450時間）を履修する必要がある。資格にふさわしい実力を備えることができるように、実習は講義、演習、および学内実習で学んだ知識、技術、態度が効果的に実践できるように、下記の実習段階別配分とする。

《実習区分・日数および時間数》

配分		区分	配属実習日数・時間	単位数
介護実習Ⅰ	第1段階 (1年次後期)	実習施設・事業等(Ⅱ)	10日(80時間)	3単位
	体験実習1 (1年次後期)	実習施設・事業等(Ⅰ)	4日(32時間)	
	体験実習2 (1年次後期)	実習施設・事業等(Ⅰ)	4日(32時間)	

配分		区分	配属実習日数・時間	単位数
介護実習Ⅱ	第2段階 (2年次前期)	実習施設・事業等(Ⅱ)	17日(135時間)	7単位
	第3段階 (2年次後期)	実習施設・事業等(Ⅱ)	23日(180時間)	

#### 2. 実習施設・事業所等の区分

##### (1) 【実習施設・事業等(Ⅰ)】

利用者の生活の場である多様な介護現場において、利用者の理解を中心とし、これに併せて利用者・家族との関わりを通じたコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働の実践等を行うことに重点を置く。

訪問介護、通所介護、介護老人保健施設、障害者支援施設、小規模多機能型施設、グループホームなど

##### (2) 【実習施設・事業等(Ⅱ)】

一つの施設・事業等において一定期間以上継続して実習を行う中で、利用者ごとの介護計画の作成、実施、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった一連の介護過程のすべてを継続的に実践することに重点を置く。

介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）、介護老人保健施設など

なお、第1段階施設実習は日勤のみ、第2段階施設実習は日勤と早出・遅出・休日勤務を含む変則勤務実習、第3段階施設実習は日勤と早出・遅出・夜勤(1回)・休日勤務を含む変則勤務実習とする。

## V 実習の心得

介護実習は単に技術を体験し、習得するだけの場ではない。専門職業人としてふさわしい態度や資質を身につける場としても重要である。介護福祉士を目指す学生としてのマナーを守り、実習先の規則に従う。「学ぶ」立場とは何かを考えつつ実習することは、専門職業人としての自己を磨き、人間的成長につながる。

### 1. 実習全般を通して

#### (1) 守秘義務

- ① 利用者のプライバシーを常に考慮し、特に実習施設外では利用者について話題にしない。利用者の情報を他言しない。実習記録の取り扱いに注意し、紛失しない。記録には利用者の名前は書かない。
- ② 利用者の観察や情報収集は、施設の日課や介護活動の流れの中で行う。

#### (2) 実習態度

- ① 実習時間を厳守する。実習開始時間5分前までに、実習できる態勢を整える。
- ② やむをえず欠席、および遅刻する場合は、実習開始時間までに実習指導者および宇短大へ連絡する。
- ③ 実習中は、学生同士の不必要な私語は慎む。
- ④ 実習中は、規則正しい生活をする。
- ⑤ 実習中は、健康管理に留意する。健康を害したときには、速やかに実習指導者に報告し指示に従う。
- ⑥ ケアの前後は手洗い・消毒を励行し、感染予防に心掛ける。
- ⑦ 実習中に事故が発生した場合、本人又はリーダーが速やかに実習指導者および宇短大へに報告する。
- ⑧ 実習中の喫煙は控える。
- ⑨ 実習施設の禁止事項に従う。

#### (3) 服装、身だしなみ

- ① 大学または実習先で指示された規定に従う。
- ② 服装は、大学指定のユニホームを着用し、常に清潔を保つ（靴を含む）。  
実習先から指定された場合は、その指示に従う。実習先から特に指示がない場合は、大学指定のユニフォームを着用する。
- ③ ペンダント、イヤリング、ピアス、ブローチ、指輪、時計は利用者を傷つけることもあるので身につけない。
- ④ 髪は乱れないようにまとめる。
- ⑤ 化粧はうすく、爪は短く、マニキュアはつけない。また香りの強いものは身につけない。

### 2. 実習において守るべきこと

#### (1) 施設・居宅および実習指導者に対して

- ① 施設・居宅職員には、自分から進んで挨拶する。
- ② 施設・居宅の運営方針を理解し、組織の秩序を乱さないように心掛ける。
- ③ 学生は指導を受ける立場にあることを自覚し、実習指導者や職員の指示に従って行動する。
- ④ 実習中は学生であっても利用者や家族からみれば職員とみなされるので、責任ある行動をとる。

- ⑤ わからないことはあいまいにせず、積極的に実習指導者や職員に質問する。
- ⑥ 施設の設備、備品などを破損した場合は、速やかに実習指導者および短大へ報告する。
- ⑦ 実習先での電話には、原則として出ない。やむをえず受話器を取った場合には、実習生であることを告げて、用件を取り次ぐ。
- ⑧ 実習終了時には、その日に実施したことを実習指導者に報告し、挨拶して退出する。

#### (2) 利用者に対して

- ① 利用者は施設で生活しており、その中で実習生としてかわらせて頂いていることをわきまえ、失礼のないよう慎重に行動する。
- ② 利用者には公平に接する。
- ③ 利用者には積極的にはっきりと挨拶する。
- ④ 利用者には丁寧な言葉遣いで、人格を尊重して接する。
- ⑤ 利用者に依頼されたこと（買い物、外出等）は必ず実習指導者に相談して対処する。自己判断をしてはならない。
- ⑥ 利用者の情報は、口外してはならない。
- ⑦ 利用者の安全には、細心の注意を払う。
- ⑧ 利用者の私物を破損・損失した場合は、実習指導者及び大学に報告する。
- ⑨ 利用者からの金品は、絶対に受け取らない。また、金品を利用者に与えたり、実習指導者の許可なく利用者に住所、電話番号を教えない。
- ⑩ 介護しながら利用者の前で私話することを慎む。愛称で呼び合わない。

#### (3) 実習期間終了にあたって

- ① 実習が終了し実習先を退出するときは、実習指導者や施設長だけでなく、全職員にもお礼を述べ、挨拶する。
- ② 利用者への別れの挨拶は、施設の指示に従う。
- ③ 実習中借用した部屋、更衣室、ロッカーなど掃除し、物品などは元の位置に戻す。
- ④ 食費など諸経費を清算する。
- ⑤ 終了後に礼状を出すことは基本的な礼儀である。
- ⑥ 実習終了後は、利用者との個人的関係はさしひかえる。

#### (4) 宿泊実習時の注意

- ① 施設内で宿泊する場合、実習時間外にみだりに、利用者を訪問しない。
- ② 宿舎での時間は私的時間ではあるが、節度のある服装・行動に心掛ける。
- ③ 外出・外泊は指導者の許可を受け、行き先・帰宅時間を報告する。
- ④ 外出はできるだけ複数で行動する。
- ⑤ 宿舎の戸締り・火の元・消灯には十分に注意する。
- ⑥ 宿舎内の清掃は、全員で協力する。
- ⑦ 実習終了時は、使用した設備・物品を元の状態に戻し、点検を受け、鍵を返却して退出する。

### 3. 実習出席表について

- (1) 実習出席表は、介護福祉士の資格を取得するために必要な介護実習（450 時間）を行ったことを証明する大切な書類である。
- (2) 実習出席表には、実習開始時間と実習終了時間を記入し、各自捺印する。欠席の場合は、実習時間欄に「欠席」と書く。
- (3) 遅刻・早退は備考欄に理由を記入する。

(4) 実習が終了したら、実習指導者、実習施設長の署名捺印をいただく。

4. 実習費用について

実習に必要な諸経費（交通費・食費など）は、自己負担とする。

5. 実習中の持ち物について

実習要綱、実習記録、筆記用具、印鑑、辞書、テキスト、健康保険証の写し、ユニホーム一式および必要な衣類（入浴介助のための着替え）等を持参する。

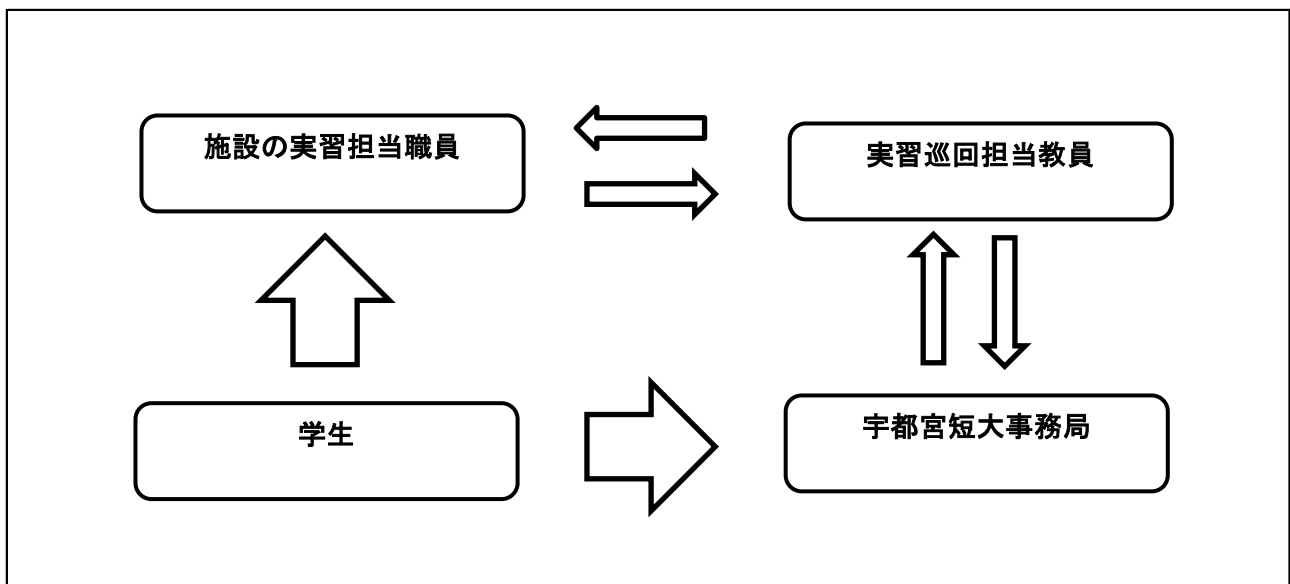
ただし、実習先によって持ち物は違う場合があるので、オリエンテーションで確認する。

6. 実習期間中の連絡先

宇都宮短期大学人間福祉学科 介護福祉専攻

〒321-0346 宇都宮市下荒針町長坂 3829

TEL・028-648-2331 FAX・028-648-9870



## VI 実習記録

1. 記録の意義

実習では所定の介護実習記録用紙へ記入する。

実習記録は、次の意義をもって作成される。

- (1) 実習記録は実習全体の計画書である。自分自身の実習課題を明確にするために必要である。
- (2) 日々の実習内容を記録することによって、体験を客観化することができる。自分の体験をこれによって第三者に伝えることもでき、実習指導をうけるために欠かせない資料である。
- (3) 学内での学習がどこまで生かされたか、自分で点検するための資料にもなる。

2. 記録方法

実習記録は大学指定の用紙を使用する。各自が設定したその日の実習目標と課題に添って、活動内容や課題への取り組み結果などを記録する。

- (1) 細かく観察して客観的に書く。
- (2) 事実を正確に書く。
- (3) 実施した行動の意味と実施過程がわかるように書く。

- (4) 利用者をよく観察し、自分が実施した行動やその利用者の行動はできるだけ具体的に書く。
- (5) 利用者の氏名は、A 様、B 様等と表記するのが原則であるが、実習指導者の指示に従う。

### 3. 記入時の注意事項

- (1) 黒いボールペンまたは万年筆で記入する。
- (2) 簡潔明瞭に記入する。
- (3) 文字は楷書で書き、誤字脱字がないようにする。また省略語等はいない。
- (4) 専門用語を用いて記入する。

### 4. 取り扱い上の注意

秘密保持の原則を守り、保管には細心の注意を払う。

### 5. 提出

- (1) 実習中は、翌朝実習開始時に実習先の実習指導者へ提出し、実習を行う。
- (2) 実習期間終了後は、短大で定められた期日までに、決められた方法で実習指導者に提出する。
- (3) 実習先へ提出後は、巡回担当教員および総合演習担当の教員へ報告する。

## VII 実習評価

### 1. 評価の目的

- (1) 実習目的の達成のため、実習を通して観察・指導し、学生の進歩を促す。
- (2) 実習指導計画および実習指導方法を評価し、実習の効果をあげる。
- (3) 次の実習のための参考資料とする。

### 2. 評価の時期

最終評価は実習終了後に実施する。

### 3. 評価基準

A	B	C	D
優れている	概ねできている	努力を要する	かなりの努力を要する
助言を活かして行うことができる	助言を受けて行うことができる	助言を受けながら行うことができる	何度も助言を繰り返してもできない

### 4. 評価方法

- (1) 評価の目的にそって、できる限り客観的に評価する。
- (2) 最終評価は、施設評価と学校評価を統合して判断する。
- (3) 欠席日数が出席日数の 5 分の 1 を超えた場合には、評価を受ける資格を失う。

施設評価表を入れる

## Ⅷ 実習前のオリエンテーション

### 【施設介護実習】

#### 1. 実習配置表：実習施設・実習担当教員の確認

#### 2. 実習前準備

##### (1) 実習施設での事前オリエンテーションの日程調整

- ① 実習開始一週間前までに訪問できるように電話で日程調整を行う。
- ② 原則、授業のない日をお願いする。  
やむを得ず授業を欠席する場合は事前に「公欠届」を事務局に提出する。  
オリエンテーション当日はスーツを着用する。
- ③ 日程を実習担当教員に報告する。
- ④ 当日は「事前オリエンテーション用紙」にオリエンテーション内容を記入する。
- ⑤ オリエンテーション終了後、実習担当教員に内容の報告とともに「事前オリエンテーション用紙」を教員に提出する。

##### (2) 検便及びその結果の提出

定められた日程で検便を実施し、その結果は実習初日に実習先へ提出する。

##### (3) ユニホーム・シューズ等の準備

事前に洗濯し清潔にしておく。

##### (4) 持参するもの

- ① メモ帳と筆記用具、印鑑、保険証のコピー
- ② うがい薬、常備薬（痛み止め、喘息薬等）、生理用品、マスク、バンダナ他

##### (5) 宿泊の学生は、持参するものの確認と準備

#### 3. 実習初日

- (1) 実習開始時間に間に合うよう余裕をもって到着する。
- (2) 検便結果を持参し、実習先指導者の方へ各自提出する。

#### 4. 実習中

- (1) 毎朝、出席表に日時を記入・捺印する。  
間違った場合は二重線で訂正し捺印する（修正液の使用は不可）。
- (2) 実習日誌は、毎日記録し、提出する（提出方法は施設指導者に何う）。
- (3) 実習中は携帯電話の電源を切っておく。

#### 5. 反省会

実習期間中の中ほどに 1 回、最終日前後に、できれば反省会を設けていただく（実習先指導者をお願いする）。

#### 6. 実習最終日

- (1) 出席表に施設長、実習指導者の捺印をいただき、実習終了後、実習担当教員へ提出する（最終日は施設長が不在の場合もあるので前日までをお願いしておく）。
- (2) ロッカー・休憩室等実習中に使用させていただいた部屋を清掃する（宿泊者は宿泊室も清掃）。
- (3) 食事代等の清算を済ませる（宿泊代は大学で実習費とともに支払う）。
- (4) 実習中お世話になった方へ挨拶する（利用者、施設長、職員の皆様、事務の方等）。

(5) 実習記録の提出日を実習先指導者に伝える。

## 7. 実習後

- (1) 記録類のファイルを準備し、各実習担当教員から指導を受けて提出する。
- (2) 実習施設へ1週間以内にお礼状を出す（施設ごとに発送する）。

## 8. 留意事項

- (1) 清潔なユニホーム、シューズを使用する。
- (2) 挨拶・言葉使い等礼儀正しくする。
- (3) 守秘義務の原則を守る。

## 【居宅介護実習】（実習施設・事業等 I に含まれる）

### 1. 準備する物

- (1) ユニホーム（着替え—動きやすい服装・短パン—入浴介助用）
- (2) 運動靴・上履き（実習用スニーカーなど）
- (3) 履き替え用靴下
- (4) ハンドタオル（ハンカチでないもの）
- (5) 筆記用具
- (6) 昼食・飲み物

※実習先によって異なるので、オリエンテーション時または事前に電話で確認する。

### 2. 検便及びその結果の提出

検便を実施し、その結果は実習初日に実習先へ提出する。

### 3. 心構え

- (1) 目的意識をもち実習する。
- (2) 利用者を人生の先輩として尊敬し接する。
- (3) 実習前には、健康管理を心がけ、体調を整えておく。
- (4) 実習で知り得たことに対し、守秘義務を守る。
- (5) 介護にふさわしい身だしなみをする（爪・化粧・ピアス・髪の色、前髪、髭などに留意する）。

### 4. 注意点

#### (1) 言葉使い

- ① 利用者に対し、実習をさせていただくという謙虚な気持ちを持ち、きちんと大きな声で挨拶する。
- ② ゆっくり、はっきり、聞き取りやすいように話す。
- ③ なれなれしい言葉は慎む（名前は名字で呼ぶ。「おじいちゃん」「おばあちゃん」とは呼ばない）。

#### (2) 態度

- ① 笑顔で接する。
- ② 言葉をかける時は、視線を合わせる。
- ③ 聴き上手になる（常に「聞く」側にまわるように努める）。
- ④ 訪問先でメモ等をとらない。



※実習先によっては実習時の注意事項についての資料があるので、充分目を通しておくこと。

5. 出席表について

- (1) 記入方法：実習時間については実習先の指導者に確認した上で記入する。
- (2) 提出方法については実習前に説明する。

6. 実習後

- (1) 記録類のファイルを作成し、各担当教員から指導を受けて提出する。
- (2) 実習施設へ1週間以内にお礼状を出す（施設ごとに出す）。

# 日本介護福祉士会の倫理綱領

1995年11月17日 宣言  
社団法人日本介護福祉士会

## 日本介護福祉士会 倫理綱領

### 前文

私たち介護福祉士は、介護福祉ニーズを有するすべての人々が、住み慣れた地域において安心して老いることができ、そして暮らし続けていくことのできる社会の実現を願っています。

そのため、私たち日本介護福祉士会は、一人ひとりの心豊かな暮らしを支える介護福祉の専門職として、ここに倫理綱領を定め、自らの専門的知識・技術及び倫理的自覚をもって最善の介護福祉サービスの提供に努めます。

(利用者本位、自立支援)

1. 介護福祉士は、すべての人々の基本的人権を擁護し、一人ひとりの住民が心豊かな暮らしと老後が送れるよう利用者本位の立場から自己決定を最大限尊重し、自立に向けた介護福祉サービスを提供していきます。

(専門的サービスの提供)

2. 介護福祉士は、常に専門的知識・技術の研鑽に励むとともに、豊かな感性と的確な判断力を培い、深い洞察力をもって専門職として責任を負います。

(プライバシーの保護)

3. 介護福祉士は、プライバシーを保護するため、職務上知りえた個人の情報を守ります。

(総合的ニーズの提供と積極的な連携、協力)

4. 介護福祉士は、利用者に最適なサービスを総合的に提供していくため、福祉、医療、保健その他関連する業務に従事する者と積極的な連携を図り、協力して行動します。

(利用者ニーズの代弁)

5. 介護福祉士とは、暮らしを支える視点から利用者の真のニーズを受け止め、それを代弁していくことも重要な役割であると確認したうえで、考え、行動します。

(地域福祉の推進)

6. 介護福祉士は、地域において生じる介護問題を解決していくために、専門職として常に積極的な態度で住民と接し、介護問題に対する深い理解が得られるよう努めるとともに、その介護力の強化に協力していきます。

(後継者の育成)

7. 介護福祉士は、すべての人々が将来にわたり安心して質の高い介護を受ける権利を享受できるよう、介護福祉士に関する教育水準の向上と後継者の育成に力を注ぎます。

# 介護実習

## 第1段階

実習施設・事業等（Ⅱ）

## 1. 実習目的

- (1) 介護過程の展開を通して対象者の特性を理解する。また、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する学習とする。
- (2) 利用者との人間的触れ合いを通じて、利用者の介護ニーズと介護の機能ならびに施設職員の役割について学ぶ。

## 2. 実習目標

- (1) 介護過程の展開を通して対象者の特性を理解する。
- (2) 福祉施設の概要を学ぶ。
- (3) 職員と共に介護活動を行い、介護の機能の実際について学ぶ。
- (4) 施設職員の構成と業務・内容および介護職の役割について学ぶ。

## 3. 学習内容および学習方法

目標	学習内容	学習方法
介護過程の展開を通して対象者の特性を理解する	利用者の生活の様子から、生活環境としての施設について考える。	①利用者の日課にかかわり、利用者にとって生活しやすい環境とはどのようなものかを考える。 ②ICFによる背景因子である人的環境（主介護者、家族、介護職員等）によって、利用者にとってどのような変化が現れるか等を学ぶ。 ③利用者の居住環境について知る。 ・居住環境の整備、プライバシー空間の設営 ・衣類・寝具の衛生管理と掃除 ・寝床の整備
	利用者の心理面や社会面の特徴を知る。	①利用者の性格特性 ②利用者が日ごろ大切に思っていること ③趣味や楽しみになっていること ④利用者の家族との関係 ⑤他の入所者との関係 ⑥行事への参加の仕方 ⑦施設の生活についての思い ⑧利用者が現在望んでいること
	利用者の生活習慣や生活動作の特徴を知る。	①どのように食事や排泄、身体の清潔や休息がされているかを知る。 ②日常生活動作を細かく観察する（移動動作、着脱動作、排泄動作、入浴動作、食事動作、整容動作等）。
	利用者の記録を見て心理的・社会的・身体的な特徴を知る。	①年齢、入所日、入所理由 ②入所までの生活歴（出生地、教育歴、職業歴、経済状態、家族関係） ③入所から現在までの経過 ④障害の状態、既往歴と現病歴、バイタルサイン ⑤利用者のアセスメントについて記載する

福祉施設の概要を学ぶ	<p>福祉施設について理解する。</p> <p>実習施設の概要を理解する。</p> <p>実習施設の地域特性を理解する。</p>	<p>①福祉施設の設置についての法的な根拠を調べる（設備・職員・利用者の特徴）。</p> <p>②施設利用に至るまでの手続きや利用者の費用負担等を調べる</p> <p>③施設実習を通して、様々な福祉施設の特徴や利用者の特性を理解する。</p> <p>④日本における福祉施設の利用状況（利用者数・平均年齢・利用者の特徴等）や問題点及び今後の動向について理解を深める。</p> <p>①施設の沿革、設立年月日、設置主体</p> <p>②運営方針</p> <p>③施設長名、実習指導者名</p> <p>④職員構成（ケアワーカー全体数、介護福祉士数、介護職員数、生活相談員（生活指導員）数、看護師数、栄養士数、調理員数、作業・理学療法士数、医師数、事務員数等）</p> <p>⑤利用者の特徴（年齢構成、性別、入所理由、入所期間、社会的背景、障害の種類等）</p> <p>⑥建物の構造（居室、食堂、浴室、トイレ、医務室、事務室、更衣室、非常口、実習生の控え室等）</p> <p>⑦介護の方針、日課、週間・年間スケジュール、勤務形態、ケースカンファレンスや介護職員研修等</p> <p>①実習施設の所在地を知り、地域特性（人口構成、高齢化率、地理、産業等）を調べ、施設周辺の環境を理解する。</p> <p>②地図や時刻表を用いて、交通機関を調べる。</p>
------------	--	--

<p>職員と共に介護活動を行い、介護の機能の実際について学ぶ</p>	<p>介護職員（ケアワーカー他）とともに日常生活援助を体験する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 身体的生活援助</li> <li>2. 文化的生活援助</li> <li>3. 社会的生活援助</li> <li>4. 生活環境整備/生活経営・管理</li> <li>5. 健康観察・保持</li> <li>6. 相談・助言</li> <li>7. 応急処置／終末期ケア</li> <li>8. 管理・運営</li> </ol>	<p>①施設の日課に添った介護職員（ケアワーカー他）の日常生活援助を通し、できるところは積極的に申し出て経験させてもらう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特に利用者の移動支援をするときは、安全確保のため必ず介護職員（ケアワーカー他）と共に行う。</li> </ul> <p>②体験の後には、指導者から助言を受け、自分の援助過程を分析して改善点を見出し、「実習日誌」に記録する。実習日誌は実習指導者に提出する。</p> <p>★以下の諸点を意識して、施設の職員とかかわる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初日は自己紹介のために、実習目標や自分の課題の要点をまとめ、言葉で表現できるようにしておく。</li> <li>・質問されたときには、相手の目を見てすぐに返答する。答えられないならば、その理由をはっきり述べる。</li> <li>・質問があれば、その場の状況を考慮し相手の都合を伺う。質問の用件は手短かに述べる。積極的に質問し、わかったことは復唱して相手の人に返す。</li> <li>・感謝の気持は、必ず言葉と表情で表現する。</li> <li>・明るい表情で、わかりやすい表現を用いる。</li> </ul>
------------------------------------	---	---

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">施設職員の構成と業務・内容および介護職の役割について学ぶ</p>	<p>施設職員の役割や連携の状況を学習する。</p> <p>他職種の役割を知り、医療・福祉の連携方法を学ぶ。</p>	<p>①利用者のケアについてどのような検討がなされているかを考える。</p> <p>②職員がどのような役割をしているかを考える。</p> <p>③栄養士や調理師の業務を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・献立作成、調理、盛り付け、配膳、残食の観察、後片付けまでの一連の過程を理解する。</li> <li>・一般食、きざみ食、ミキサー食、治療食などの食事形態の種類を見学し、利用者の特性に合わせる必要性を理解する。</li> <li>・摂取量の記録の仕方を見学し、栄養士とケアワーカーの連携の仕方を学ぶ。</li> </ul> <p>①生活相談員（生活支援員）の業務を見学し、その役割と業務の実際を知る。</p> <p>②看護師の業務を見学し、その役割と業務の実際を知る。</p> <p>③栄養士の業務を見学し、その役割と業務の実際を知る。</p> <p>④理学療法士（機能訓練指導員）の業務を見学し、その役割と業務の実際を知る。</p> <p>⑤介護支援専門員の業務を見学し、介護保険における施設介護サービスの提供、管理の実際を知る。</p> <p>⑥機会があったらケースカンファレンスを見学する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加メンバー、カンファレンスの内容、本人・家族の希望に対する計画など</li> </ul> <p>⑦よりよい介護を行うために他の専門職との協働意識を持ち、実践面での役割分担を明確にする。</p>
---	--	---

#### 4. 実習方法

(1) 実習期間および時間

年 月 日 ( ) ~ 年 月 日 ( ) (10日間)

(2) 実習場所 実習施設・事業等 (II)

介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）、介護老人保健施設、等

(3) 実習配置表

事前に掲示する。

(4) 事前学習

- ① 施設概要について施設の種類と設置法、設置目的、運営、職員構成、利用者の特徴を調べる。
- ② 施設における介護職員の役割を調べる。
- ③ 介護の機能について復習する。
- ④ 自己の介護技術の習得状況について確認し、実践できるよう復習する。

# 体験実習 1

実習施設・事業等（Ⅰ）



## 1. 実習目的

対象者の生活を支える多様な介護サービスに関する理解を深め、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術について学ぶ。

## 2. 実習目標

- (1) 様々な対象者への介護に関する理解を深める。
- (2) 多様な介護サービスに関する理解を深める。
- (3) 基本的な介護技術について学ぶ。
- (4) 利用者・家族との関わりを通して、コミュニケーションの実践について学ぶ。
- (5) 多職種協働の実践について学ぶ。

## 3. 学習内容および学習方法

目標	学習内容	学習方法
様々な対象者への介護に関する理解を深める	利用者の心理面や社会面の特徴を知る。	①利用者の性格特性 ②利用者が日頃大切に思っていること ③趣味や楽しみになっていること ④利用者の家族との関係 ⑤他の入居者との関係 ⑥行事への参加の仕方 ⑦生活の場についての思い ⑧利用者が現在望んでいること
	利用者の生活習慣や生活動作の特徴を知る。	①どのように食事や排泄、身体の清潔や休息がされているかを知る。 ②日常生活動作を細かく観察する（移動動作、着脱動作、排泄動作、入浴動作、食事動作、整容動作等）。
	利用者の記録を見て心理的・社会的・身体的な特徴を知る。	①年齢、入居日、入居理由 ②入居までの生活歴（出生地、教育歴、職業歴、経済状態、家族関係） ③入居から現在までの経過 ④障害の状態、既往歴と治療状況、バイタルサイン

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">多様な介護サービスに関する理解を深める</p>	<p>実習施設の概要を理解する。</p> <p>利用者の生活の様子から、生活環境としての施設について考える。</p> <p>施設で行われている介護サービスを学ぶ。</p>	<p>①施設の沿革、設立年月日、設置主体</p> <p>②運営方針</p> <p>③施設長名、実習指導者名</p> <p>④職員構成</p> <p>⑤利用者の特徴（年齢構成、性別、入所理由、入所期間、社会的背景、障害の種類・・・）</p> <p>⑥建物の構造（居室、食堂、浴室、便所、医務室、事務室、更衣室、非常口、実習生の控え室等）</p> <p>⑦介護の方針、日課、週間・年間スケジュール、勤務形態、ケースカンファレンスや介護職員研修など</p> <p>①利用者の日課にかかわり、利用者にとって生活しやすい環境とはどのようなものなのかを考える。</p> <p>②ICFによる背景因子である人的環境（主介護者、家族、介護職員等）によって、利用者にとってどのような変化が現れるか等を学ぶ。</p> <p>③利用者の居宅環境について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・居住環境の整備</li> <li>・プライバシー空間の設営</li> <li>・衣類・寝具の衛生管理と掃除</li> <li>・寝床の整備</li> </ul> <p>①施設パンフレットや事前オリエンテーションで、現在行われている介護サービスについて調べる（サービスの種類・内容など）。</p> <p>②デイサービス、食事サービス、地域包括支援センター、ホームヘルパーなどの実際を学び、どのような人が利用しているかを知る。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">基本的な介護技術について学ぶ</p>	<p>介護職員（ケアワーカー他）とともに日常生活援助を体験する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.身体的生活援助</li> <li>2.文化的な生活援助</li> <li>3.社会的な生活援助</li> <li>4.生活環境整備/生活経営・管理</li> <li>5.健康観察・保持</li> <li>6.相談・助言</li> <li>7.応急処置／終末期ケア</li> <li>8.管理・運営</li> </ol>	<p>①施設の日課に添った介護職員（ケアワーカー他）の日常生活援助を通し、できるところは積極的に申し出て経験させてもらう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特に利用者の移動支援をするときは、安全確保のため必ず介護職員（ケアワーカー他）と共に行う。</li> </ul> <p>②体験の後には、指導者から助言を受け、自分の援助過程を分析して改善点を見出し、「実習日誌」に記録する。</p>

<p>利用者・家族との関わりを通して、コミュニケーションの実践について学ぶ</p>	<p>自己理解を深める。</p> <p>他者理解を深める。</p> <p>生活支援を通し、コミュニケーション技術を学ぶ。</p>	<p>①自己覚知し、自分自身の長所・短所を理解する。</p> <p>①利用者の性格特性 ②利用者が日頃大切に思っていること ③趣味や楽しみになっていること ④利用者の家族との関係 ⑤他の入居者との関係 ⑥行事への参加の仕方 ⑦生活の場についての思い ⑧利用者が現在望んでいること</p> <p>①実際の介護場面において、どのようにコミュニケーションが図られているのかを知る。 ②言語的コミュニケーションについて理解する。 ③非言語的コミュニケーションについて理解する。</p>
<p>多職種協働の実践について学ぶ</p>	<p>他職種の役割を知り、医療・福祉の連携方法を学ぶ。</p>	<p>①生活相談員（生活支援員）の業務を見学し、その役割と業務の実際を知る。 ②看護師の業務を見学し、その役割と業務の実際を知る。 ③栄養士の業務を見学し、その役割と業務の実際を知る。 ④理学療法士（機能訓練指導員）の業務を見学し、その役割と業務の実際を知る。 ⑤介護支援専門員の業務を見学し、介護保険における施設介護サービスの提供、管理の実際を知る。 ⑥機会があったらケースカンファレンスを見学する。 ・参加メンバー、カンファレンスの内容、本人・家族の希望に対する計画など ⑦よりよい介護を行うために他の専門職との協働意識を持ち、実践面での役割分担を明確にする。</p>

#### 4. 実習方法

(1) 実習期間および時間

年 月 日 ( ) ~ 年 月 日 ( ) (4日間)

(2) 実習場所 実習施設・事業等 (I)

訪問介護、通所介護、介護老人保健施設、障害者支援施設、小規模多機能型施設、グループホーム等

(3) 実習配置表

事前に掲示する。

(4) 事前学習

- ① 施設概要について施設の種類と設置法、設置目的、運営、職員構成、利用者の特徴を調べる。
- ② 施設における介護職員の役割を調べる。
- ③ 介護の機能について復習する。
- ④ 自己の介護技術の習得状況について確認し、実践できるよう復習する。

# 体験実習 2

実習施設・事業等（Ⅰ）

## 1. 実習目的

対象者の生活を支える多様な介護サービスに関する理解を深め、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術について学ぶ。

## 2. 実習目標

- (1) 様々な対象者への介護に関する理解を深める。
- (2) 多様な介護サービスに関する理解を深める。
- (3) 基本的な介護技術について学ぶ。
- (4) 利用者・家族との関わりを通して、コミュニケーションの実践について学ぶ。
- (5) 多職種協働の実践について学ぶ。

## 3. 学習内容および学習方法

目標	学習内容	学習方法
様々な対象者への介護に関する理解を深める	利用者の心理面や社会面の特徴を知る。	①利用者の性格特性 ②利用者が日頃大切に思っていること ③趣味や楽しみになっていること ④利用者の家族との関係 ⑤他の入居者との関係 ⑥行事への参加の仕方 ⑦生活の場についての思い ⑧利用者が現在望んでいること
	利用者の生活習慣や生活動作の特徴を知る。	①どのように食事や排泄、身体の清潔や休息がされているかを知る。 ②日常生活動作を細かく観察する（移動動作、着脱動作、排泄動作、入浴動作、食事動作、整容動作等）。
	利用者の記録を見て心理的・社会的・身体的な特徴を知る。	①年齢、入居日、入居理由 ②入居までの生活歴（出生地、教育歴、職業歴、経済状態、家族関係） ③入居から現在までの経過 ④障害の状態、既往歴と治療状況、バイタルサイン

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">多様な介護サービスに関する理解を深める</p>	<p>実習施設の概要を理解する。</p> <p>利用者の生活の様子から、生活環境としての施設について考える。</p> <p>施設で行われている介護サービスを学ぶ。</p>	<p>①施設の沿革、設立年月日、設置主体</p> <p>②運営方針</p> <p>③施設長名、実習指導者名</p> <p>④職員構成</p> <p>⑤利用者の特徴（年齢構成、性別、入所理由、入所期間、社会的背景、障害の種類・・・）</p> <p>⑥建物の構造（居室、食堂、浴室、便所、医務室、事務室、更衣室、非常口、実習生の控え室等）</p> <p>⑦介護の方針、日課、週間・年間スケジュール、勤務形態、ケースカンファレンスや介護職員研修など</p> <p>①利用者の日課にかかわり、利用者にとって生活しやすい環境とはどのようなものなのかを考える。</p> <p>②ICFによる背景因子である人的環境（主介護者、家族、介護職員等）によって、利用者にとってどのような変化が現れるか等を学ぶ。</p> <p>③利用者の居宅環境について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・居住環境の整備</li> <li>・プライバシー空間の設営</li> <li>・衣類・寝具の衛生管理と掃除</li> <li>・寝床の整備</li> </ul> <p>①施設パンフレットや事前オリエンテーションで、現在行われている介護サービスについて調べる（サービスの種類・内容など）。</p> <p>②デイサービス、食事サービス、地域包括支援センター、ホームヘルパーなどの実際を学び、どのような人が利用しているかを知る。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">基本的な介護技術について学ぶ</p>	<p>介護職員（ケアワーカー他）とともに日常生活援助を体験する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.身体的生活援助</li> <li>2.文化的生活援助</li> <li>3.社会的生活援助</li> <li>4.生活環境整備/生活経営・管理</li> <li>5.健康観察・保持</li> <li>6.相談・助言</li> <li>7.応急処置／終末期ケア</li> <li>8.管理・運営</li> </ol>	<p>①施設の日課に添った介護職員（ケアワーカー他）の日常生活援助を通し、できるところは積極的に申し出て経験させてもらう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特に利用者の移動支援をするときは、安全確保のため必ず介護職員（ケアワーカー他）と共に行う。</li> </ul> <p>②体験の後には、指導者から助言を受け、自分の援助過程を分析して改善点を見出し、「実習日誌」に記録する。</p>

<p>利用者・家族との関わりを通して、コミュニケーションの実践について学ぶ</p>	<p>自己理解を深める。</p> <p>他者理解を深める。</p> <p>生活支援を通し、コミュニケーション技術を学ぶ。</p>	<p>①自己覚知し、自分自身の長所・短所を理解する。</p> <p>①利用者の性格特性 ②利用者が日頃大切に思っていること ③趣味や楽しみになっていること ④利用者の家族との関係 ⑤他の入居者との関係 ⑥行事への参加の仕方 ⑦生活の場についての思い ⑧利用者が現在望んでいること</p> <p>①実際の介護場面において、どのようにコミュニケーションが図られているのかを知る。 ②言語的コミュニケーションについて理解する。 ③非言語的コミュニケーションについて理解する。</p>
<p>多職種協働の実践について学ぶ</p>	<p>他職種の役割を知り、医療・福祉の連携方法を学ぶ。</p>	<p>①生活相談員（生活支援員）の業務を見学し、その役割と業務の実際を知る。 ②看護師の業務を見学し、その役割と業務の実際を知る。 ③栄養士の業務を見学し、その役割と業務の実際を知る。 ④理学療法士（機能訓練指導員）の業務を見学し、その役割と業務の実際を知る。 ⑤介護支援専門員の業務を見学し、介護保険における施設介護サービスの提供、管理の実際を知る。 ⑥機会があったらケースカンファレンスを見学する。 ・参加メンバー、カンファレンスの内容、本人・家族の希望に対する計画など ⑦よりよい介護を行うために他の専門職との協働意識を持ち、実践面での役割分担を明確にする。</p>



#### 4. 実習方法

(1) 実習期間および時間

年 月 日 ( ) ~ 年 月 日 ( ) (4日間)

(2) 実習場所 実習施設・事業等 (I)

訪問介護、通所介護、介護老人保健施設、障害者支援施設、小規模多機能型施設、  
グループホーム等

(3) 実習配置表

事前に掲示する。

(4) 事前学習

- ① 施設概要について施設の種類と設置法、設置目的、運営、職員構成、利用者の特徴を調べる。
- ② 施設における介護職員の役割を調べる。
- ③ 介護の機能について復習する。
- ④ 自己の介護技術の習得状況について確認し、実践できるよう復習する。

# 介護実習

## 第2段階

実習施設・事業等（Ⅱ）

## 1. 実習目的

- (1) 生活障害をもっている高齢者や障害者への生活援助の方法について学ぶ。
- (2) 利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画を作成し、介護過程の展開を学ぶ。

## 2. 実習目標

- (1) 利用者の個別のニーズや障害のレベルに応じた援助の方法を学ぶ。
- (2) 利用者の QOL を高める関わり方を理解する。
- (3) 医務・看護業務の概要を理解し、職種間の連携の方法を学ぶ。
- (4) 個別の介護ニーズや介護上の問題を理解し、介護計画を立案する。

## 3. 学習内容および学習方法

目	学習内容	学習方法
利用者の個別のニーズや障害のレベルに応じた援助の方法を学ぶ	利用者の個別の特性を学ぶ。	①利用者の特性を把握する。 ・利用者の性別および障害老人自立度、認知症老人自立度 ・生活（育）過程 ・障害、疾病の種類・程度 ・一日の過ごし方 ・現在行われている援助
	障害のレベルに応じた援助方法を学ぶ。	①個々の利用者の身体状況に応じた援助の工夫を指導者から学ぶ。 ・介護を始める前の観察と準備 ・適切な声かけや援助行為の説明の仕方 ・安全、安楽への配慮 ・自立を促す援助の方法 ・介護者のボディメカニクス ②学内で学んだ基本技術をふまえて、指導者に助言を頂きながら実際にいろいろな利用者の介護を実践する。 ③機会があったら、終末時の介護を見学する。 ・利用者、家族への援助、お見送りの仕方
	障害に応じた福祉機器の活用方法を学ぶ。	①利用者の自立や介護負担の軽減のために使用されている福祉機器について説明を受け、その活用方法を理解する。 ・各種車椅子、リフター、特殊入浴機器等

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">利用者のQOLを高める関わり方を理解する</p>	<p>施設で行われている個々の利用者の QOL を高める援助方法を学ぶ。</p> <p>施設における事故防止と安全対策について学ぶ。</p>	<p>①個人の好みやこれまでの生活習慣をどのように取り入れているか知る。</p> <p>②家族・友人との交流や社会参加等の援助がどのようになされているかを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・面会、外出等</li> </ul> <p>③個人の生きがいや楽しみの援助がどのようになされているか知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・趣味、クラブ活動、行事等</li> </ul> <p>④利用者の課題・要望を知る。</p> <p>①利用者の安全を守るためにどのような配慮がなされているか知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設設備</li> <li>・福祉機器</li> <li>・その他の工夫</li> </ul> <p>②施設にある防災設備（非常口、消火器、非常ベル）及び操作方法を確認する。</p> <p>③災害時における利用者の避難誘導の方法について学ぶ。</p> <p>④防災訓練の機会があれば参加させていただき、利用者の移動能力にあわせた避難誘導方法を学ぶ。</p>
---	--	---

<p>医務・看護業務の概要を理解し、職種間の連携の方法を学ぶ</p>	<p>医務、看護業務等の概要を理解する。</p> <p>入所者の健康管理の方法や介護職との連携の仕方を学ぶ。</p> <p>介護の機能の範囲について考え、介護の専門職としての責任と役割を学ぶ。</p>	<p>①医務、看護、理学療法業務等を見学し、施設内でそれぞれの役割を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医師の診察（回診、往診、受診）の見学</li> <li>・服薬管理の見学</li> <li>・医療処置の見学</li> <li>・機能訓練の見学</li> </ul> <p>①利用者の身体に影響があると思われる行動の前後のバイタルサイン測定を見学する。機会があれば経験する。</p> <p>②感染症の対処や予防方法について理解する。</p> <p>③医務・看護職員と介護職員との連携の必要性を理解し、その方法を知る。</p> <p>④申し送りやケースカンファレンス、サービス担当者会議等に参加し、介護職と他職種との連携が利用者のよりよい援助にどのようなつながっているかを考えながら学ぶ。</p> <p>①介護職の機能の範囲について考え、組織の一員としての責任とチームケアの重要性を自覚する。</p> <p>②介護活動の主体は利用者であることを自覚し、常に利用者の立場に立って考えるように努める。</p> <p>③自らの介護実践に責任を持つ。</p> <p>④プロセスレコードを通じて、専門職としての自己を客観的に振り返り、解決すべき課題を明確にするとともに調整する能力を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・状況の事実を客観的に分析する。</li> <li>・自己の不足の部分を見出し、修正する。</li> <li>・自己の課題を自覚し、専門職としての態度・行動がとれるように努力する。</li> </ul> <p>⑤介護職が行う一つひとつの介護行為が利用者にとってどのような意義があるかを考え、介護職が果たす役割を学ぶ。</p> <p>⑥早出・遅出勤務を体験し、各勤務体制の役割を学ぶ。</p>
------------------------------------	--	--

個別の介護ニーズや介護上の問題を理解し、介護計画を立案する。

担当利用者の情報を収集し個別ニーズや介護上の問題を考える。

個別ニーズの充足・介護上の問題の解決が図れるように介護計画を立案する。

- ①利用者の人生観・価値観を尊重し、その人らしい生活を支援する方法を学ぶ。
    - ・利用者一人ひとりの理解に努め、個人の持てる力を活用した援助の方法を理解する（障害のレベルに応じた援助、残存機能を活用した援助、自立を促す援助）。
    - ・個別のニーズを受け止めその人の好み・関心を大切にして援助する。
    - ・利用者自らがつくっている生活リズムを尊重する。
  - ②利用者の個人記録から身体的・精神的・社会的な特徴を知る。
    - ・年齢、入所日、入所理由
    - ・入所までの生活歴（出身地、教育歴、職業歴、家族関係）
    - ・入所から現在までの経過
    - ・障害の種類と程度
    - ・既往歴と現病歴
    - ・健康状態（バイタルサイン、身体症状、要介護度、障害老人自立度、認知症老人自立度、ADL、IADL）
  - ③利用者の現在の生活習慣、生活動作の特徴を把握する。
    - ・一日の過ごし方
    - ・日常生活動作を細かく観察する（食事、排泄、清潔、移動、休息）。
  - ④利用者の精神面や社会面の特徴を把握する。
    - ・記憶力（認知症の有無や程度）
    - ・性格特性
    - ・趣味や楽しみ、生きがい
    - ・周囲の環境（居室、家族・他の入居者・職員との関係）
  - ⑤実習時間帯で知ることのできない情報については積極的に職員に質問したり、施設の記録を見せていただいて収集する。
  - ⑥収集した情報を指定の用紙にまとめ、利用者が望んでいることや介護上の問題について総合的に考察する。
    - ・健康な生活を送る上で問題となること
    - ・自立した生活を送る上で問題となること
    - ・生活意欲を保つために問題となること
  - ⑦指導者の助言を受けながら利用者の介護上の問題を整理する。
- ①解決すべき介護上の問題から介護目標を立てる（実習期間中に到達可能な目標とする）。
  - ②立案した介護目標を達成できるように、介護計画を立てる（目標を達成するための援助計画）。
    - ・それ以上悪化しないようにするには何をしていくか
    - ・その人らしくいきいきと生活できるためにはどのように工夫していくか
    - ・計画は5W2Hで具体的に作成する。

#### 4. 実習方法

(1) 実習期間および時間

年 月 日 ( ) ~ 年 月 日 ( ) (17日間)

(2) 実習場所 実習施設・事業等 (Ⅱ)

介護老人福祉施設 (特別養護老人ホーム)、介護老人保健施設、等

(3) 実習配置表

事前に掲示する。

(4) 事前学習

- ① 施設概要について施設の種類と設置法、設置目的、運営、職員構成、利用者の特徴を調べる。
- ② 施設における介護職員の役割を調べる。
- ③ 介護の機能について復習する。
- ④ 自己の介護技術の習得状況について確認し、実践できるよう復習する。

# 介護実習

## 第3段階

実習施設・事業等（Ⅱ）



## 1. 実習目的

- (1) 利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する。
- (2) 施設運営のプログラムに参加し、サービス全般について理解すると同時に個別の介護過程の展開、記録の方法について学ぶ。また、他職種の役割を知り、介護チームの一員として業務を遂行する能力を養う。

## 2. 実習目標

- (1) 施設運営プログラムに参加し、施設の役割を理解する。
- (2) 介護全般について理解し、チームの一員としての介護業務を遂行する。
- (3) 個別の介護計画を立案し、計画に基づいて実施・評価を行うことができるようにする。
- (4) 利用者の尊厳・プライバシー等について学ぶ。

## 3. 学習内容および学習方法

目標	学習内容	学習方法
施設運営プログラムに参加し、施設の役割を理解する	施設の組織、運営、事業の概要を理解する。	①施設パンフレットやオリエンテーションにより、施設の目的、運営方針、組織構成、施設サービス計画を把握する。
	他職種の役割を知り、医療・福祉の連携方法を学ぶ。	①生活相談員（生活支援員）の業務を見学し、その役割と業務の実際を知る。 ②看護師の業務を見学し、その役割と業務の実際を知る。 ③栄養士の業務を見学し、その役割と業務の実際を知る。 ④理学療法士（機能訓練指導員）の業務を見学し、その役割と業務の実際を知る。 ⑤介護支援専門員の業務を見学し、介護保険における施設介護サービスの提供、管理の実際を知る。 ⑥機会があれば、ケースカンファレンスに参加する。 ・参加メンバー、カンファレンスの内容、本人・家族の希望に対する計画等 ⑦よりよい介護を行うために他の専門職との協働意識を持ち、実践面での役割分担を明確にする。
	利用者の入所・退所時における準備、関連機関との連携のとり方を学ぶ。	①機会があれば、利用者の入所受け入れ準備や退所準備を見学させていただく（短期入所者でも可）。 <入所受け入れ時の準備> ・面接調査の内容と方法 ・関連機関（施設、行政、居宅介護事業所など）からの連絡 ・介護計画 <退所時の準備> ・介護相談の内容と方法 ・関連機関（施設、行政、居宅介護事業所など）への連絡

	<p>施設の生活を充実させるためのプログラムの立て方や運営方法を学ぶ。</p>	<p>①施設でクラブ活動やレクリエーション、行事等がどのように計画されているかを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企画担当者、企画内容、運営方法等</li> </ul> <p>②指導者の助言のもとに、レクリエーションの企画・準備・進行を体験する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目的、対象者、必要物品、進行計画、利用者の反応等</li> </ul>
<p>介護全般について理解し、チームの一員としての介護業務を遂行する</p>	<p>早朝・就寝時・夜間帯の介護を体験し、利用者の生活を総合的に理解するとともに、24時間の介護活動を学ぶ。</p> <p>チームケアに必要な申し送り、記録、チームワークの大切さ、チームの一員としてのあり方を学ぶ。</p> <p>ケアワーカー長（またはリーダー）の役割を学ぶ。</p>	<p>①早出・遅出・夜勤勤務を体験し、昼間と違う利用者との関わりを取り巻く環境を知り、各勤務体制における特殊な介護を学ぶ。</p> <p>②夜間・緊急時の対応の仕方を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時の避難誘導</li> <li>・医療関係者との連携</li> </ul> <p>①チームメンバーの一員であることを自覚して実際の介護業務を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ケアワーカーの指示・報告の系列を把握し、日常生活援助全般を行う。</li> </ul> <p>②ケアワーカーのリーダーへの報告、記録を経験する。</p> <p>③チームメンバーの中での自己の役割を自覚し、申し送りに参加する。</p> <p>④チームケアが円滑に展開できるように、チームの一員としてのあり方について考える。</p> <p>①ケアワーカーのリーダーの業務を見学し、そのリーダーの役割と業務の実際を学ぶ。</p> <p>②次の勤務者への申し送り（受け持ち利用者の申し送り）を体験し、ケアを継続していく大切さを学ぶ。</p>



<p>個別の介護計画を立案し、計画に基づいて実施・評価を行うことができるようにする</p>	<p>介護計画に基づいて介護を実施する。</p> <p>実施した援助を次に生かせるように評価・修正する。</p>	<p>①指導者に確認を得て立案した計画に沿って介護を実施する(計画の一部でもできることを実施)。</p> <p>②実施した結果を観察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の反応</li> <li>・問題解決の過程</li> </ul> <p>①自分が行った援助を振り返り、計画を見直す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目標設定は適切であったか</li> <li>・計画は具体的か</li> <li>・利用者に適切な方法が選択されていたか</li> </ul> <p>②①の考察をもとに計画を修正する。</p>
<p>利用者の尊厳・プライバシーなどについて学ぶ</p>	<p>実践を通し、利用者の尊厳・プライバシーの保護について理解する。</p>	<p>①環境面で、どのような配慮がなされているかを理解する。</p> <p>②実際の介護場面で、どのような配慮がなされているのかを理解する。</p>

#### 4. 実習方法

(1) 実習期間および時間

年 月 日 ( ) ~ 年 月 日 ( ) (23日間)

(2) 実習場所 実習施設・事業等 (Ⅱ)

特別養護老人ホーム、老人保健施設、等

(3) 実習配置表

事前に掲示する。

(4) 事前学習

① 施設概要について施設の種類と設置法、設置目的、運営、職員構成、利用者の特徴を調べる。

② 施設における介護職員の役割を調べる。

③ 介護の機能について復習する。

④ 自己の介護技術の習得状況について確認し、実践できるよう復習する。

# 居宅介護実習

実習施設・事業等 I

(体験実習 1・2で行う)

## 1. 実習目的

自宅で生活する高齢者とその家族の生活実態を把握し、専門的知識や技術を用いて、そのニーズに対応した介護サービスを提供する方法や実際を学ぶ。

## 2. 実習目標

- (1) 在宅生活をする高齢者の生活状況を理解する。
- (2) 介護保険制度の中の居宅介護サービスについて学ぶ。
- (3) 居宅介護での介護福祉士のあり方を理解する。

## 3. 学習内容および学習方法

目標	学習内容	学習方法
在宅生活をする高齢者の生活状況を理解する	同行訪問を通し、在宅生活をする利用者の生活状況を理解する。	①オリエンテーションや個人記録から利用者の要介護度や現在の介護状況を把握する。 ・利用者の性別および障害老人自立度、認知症老人自立度 ・障害の種類・程度、要介護度と介護ニーズ（介護サービス申請） ・家族形態と主な介護者 ・一日の過ごし方 ②現在行われている介護内容を把握する。 （介護内容と方法、時間、場所、介護者）
	自宅で生活する利用者とその家族（介護者）の関係を知り、介護上の問題を理解する。	①介護者の状態を把握する。 ・利用者との関係 ・介護者の理解力・介護知識・介護力の程度 ・介護者の健康状態・体力 ・介護者の介護意欲および他の家族の協力状態 ②オリエンテーション、個人記録から現在の介護上の問題を把握する。 ③介護支援計画で取り上げられている問題と現在行われている介護サービスから、利用者の介護ニーズが満たされているか考えてみる。

目標	学習内容	学習方法
介護保険制度の中の居宅介護サービスについて学ぶ	居宅介護事業の概要を理解する。	①自己学習により居宅介護事業の種類と役割を調べる。 ②実習施設を通し、地域包括支援センター、ホームヘルプサービス事業の概要を学ぶ。 ・法的な根拠、サービスの内容、職員の種類、業務、配置
	居宅介護サービス提供の方法を理解する。	①自己学習により居宅介護サービス提供までの流れを把握する。 ・介護保険制度、被保険者 ・申請からサービス提供までの流れ ・ケアマネジャーの役割 ②居宅介護サービス計画によるサービス提供の方法を知る。 ③快適な生活を送るために必要な社会資源の活用の仕方を学ぶ。
	居宅介護サービス管理の方法を理解する。	①サービス提供の報告がどのようになされているか理解する。 （報告内容、報告時期、報告先） ②サービスを提供している各事業所間の連携がどのように行われているか知る。 ③居宅介護サービス計画の運用方法を理解する。 ・サービス提供のモニタリング ・居宅介護サービス計画の評価・修正



居宅介護での介護福祉士のあり方を理解する	居宅介護の特性を考える。	①施設介護と居宅介護の違いを知る。 ・利用者の特徴、介護の方法
	家族に対する指導・支援の方法を理解する。	①家族の気持を理解する。 ②介護相談・指導の場面を見学し、介護の動機づけの仕方や介護指導の方法を理解する。 ・介護相談の内容 ・介護者の姿勢（関わり方） ・介護意欲が維持・向上できるような関わりの持ち方 ・介護方法についての説明の仕方
	他職種との連携のとり方、および医療との関わり方を学ぶ。	①見学およびオリエンテーションにより、他職種との連携がどのようにとられているか把握する。 ・連携のとり方、他職種との連携が円滑にいくための工夫の仕方 ②機会があれば、受診時の介護を見学する。 ・利用者の準備 ・医療施設内での利用者と医療関係者への対応の仕方 ・受診結果の報告の仕方
	居宅介護における介護福祉士のあり方について考える。	①利用者と介護福祉士の人間関係について把握する。 ②緊急時の対応の仕方を理解する。 ③介護福祉士の業務範囲と責任を明確にする。 ④訪問ヘルパー（サービス提供者）としてのマナーを学ぶ。 ・挨拶、礼儀作法 ⑤利用者を尊重した介護の意味を理解する。 ・利用者・家族の意志の尊重 ・従来の生活習慣を尊重 ・家族の介護方法の受容

#### 4. 実習方法

(1) 実習期間および時間

体験実習 1・2 のいずれかで実施する。4 日間（32 時間）。

(2) 実習場所 実習施設・事業等（I）

ホームヘルプサービス事業所、居宅介護支援事業所等

(3) 実習配置表

事前に掲示する。

(4) 居宅介護事業の概要について事前学習して実習に臨む

①「居宅介護事業の種類と役割」を調べる。

②「介護保険制度における居宅介護サービス提供までの流れ」を把握する。

③ 実習終了後、成果と課題を担当教員へ提出する。

## (5) 居宅介護実習の進め方

＜ホームヘルプサービス事業所における実習＞

- ① オリエンテーションによりホームヘルプサービス事業の概要を理解する。
- ② ホームヘルプサービス事業所で行われている居宅介護サービスの実際を見学する。  
※訪問介護の見学（同行訪問）：家事援助、身体介護、相談・助言
- ③ オリエンテーションにより居宅介護サービス管理の方法を理解する。
- ④ 居宅介護での介護福祉士のあり方について考える。

## 5. 実習時の留意事項

- (1) 利用者の「家庭」を訪問して実習させていただくことを認識し、挨拶・マナーに気をつける。
- (2) 指導者（同行ヘルパー）の指示に従って行動をする。
- (3) 利用者または家族のプライバシーに配慮し、実習で知り得た情報は不必要に他言しない。
- (4) 実習中に感じた利用者に関する疑問は、利用者・家族のいる前では質問しない。
- (5) 同行訪問時の服装
  - ・ 宇短大指定のユニフォームを着用し、相手に失礼のない服装とする。
  - ・ 髪は、援助に支障がないようにまとめる。
  - ・ 化粧は、華美にならないようにする。
  - ・ 靴は、歩きやすいものにする。
  - ・ ハンドタオル、替えの靴下を持参する。

## 実習記録一覧

No	実習記録用紙	介護実習Ⅰ			介護実習Ⅱ	
		第1段階	体験実習1	体験実習2	第2段階	第3段階
	個別目標	○	○	○	○	○
1	施設の概要	○			○	○
2	実習日誌	○	○	○	○	○
3	フェースシート	○			○	○
4	介護情報				○	○
5	介護情報の解釈・分析・判断				○	○
6	介護計画表				○	○
7	プロセスレコード				○	○
8	成果と課題	○	○	○	○	○
	出席表	○	○	○	○	○

## 資料 1

## 介護の機能（ケアワークの内容）

項目	内容	必要とされる専門知識・技術
1. 身体（生理）的生活援助	食事、排泄、入浴、睡眠、整容、着脱、移動など	家庭医療・看護 リハビリテーション ケースワーク
2. 文化的な生活援助	読書、学習、趣味、娯楽、レクリエーション	ケースワーク グループワーク コミュニティワーク 生涯学習
3. 社会的な生活援助	交際、家族との交流、行事、仕事、外出、外泊、買物、ボランティア活動など	社会参加 リハビリテーション
4. 生活環境整備 生活経営・管理	調理、衣服の管理、住居の整理・整頓・整備、買物、金銭管理、生活用具の工夫など	個人・家庭生活経営・管理 (生活設計、衣・食・住生活管理) 生活環境衛生 介護・福祉機器 生活用具作成技術
5. 健康観察・保持	全身観察、訴え・異常行動の把握、呼吸・脈・体温・血圧・身長・体重の把握、尿・便の観察 与薬、点眼、塗布、湿布 通院介助 機能訓練、医療関係者との連絡	家庭医療・看護 老人・障害者（児）の医学 リハビリテーション
6. 相談・助言	話・相談相手、介護方法の指導 介護情報の提供	対人援助技術 ・ケースワーク ・カウンセリング
7. 応急処置 終末期ケア		終末期医療・看護 救急医療
8. 管理・運営	介護計画立案・評価（検討会議） 介護記録、関係機関・職種との連携 社会資源の利用	ケースマネジメント ケアマネジメント

## 実習先への連絡方法

### 1 事前にオリエンテーションを受ける場合

- ① 電話をかける前に確認すべき事項を準備すること
  - ・「事前オリエンテーション用紙」にわかることは先に記入すること。また、確認する項目にチェックを入れておく。
  - ・複数人数で行く場合は訪問できる日にちと時間を最低3つは決めておく。
  - ・「施設の概要」の用紙、もしくはこの要綱のページをすぐに出せるように準備する。
- ② **(10時までは)** おはようございます。**(10時から18時まで)** こんにちは。**(18時以降)** こんにちは。  
私は宇都宮短期大学 人間福祉学科 介護福祉専攻の学生で〇〇〇〇と申します。  
〇月〇日からお世話になります介護実習の事前オリエンテーションの日時について、打ち合わせをさせて頂きたくてお電話しました。
- ③ お忙しいところ恐縮ですが、担当の方はいらっしゃいますか。
- ④ **(担当の方が電話に出たとき→担当者の名前を控える)** →②を繰り返す  
私の都合を申し上げて大変恐縮ですが、授業のない日時が〇月〇日〇曜日の〇時、〇月〇日〇曜日の〇時、〇月〇日〇曜日の〇時ですので、できればいずれかの日時でお伺いしたいのですが、ご都合はいかがでしょうか。
- ⑤ **(都合が合うとき)** ありがとうございます。それでは〇月〇日〇曜日の〇時(復唱する)にお伺いします。  
**(都合が合わないとき)** それではご都合のよい日時を教えてくださいませんか。**(日時を伺ったら)** 〇月〇日〇曜日の〇時、ですね。申し訳ございませんが授業と重なってしまいますので、担当の先生と相談のうえ、あらためて連絡させていただきたいのですがよろしいでしょうか。
- ⑥ **(担当の方が不在の場合)** それではご伝言をお願いしたいのですが、よろしいでしょうか。〇月〇日からの介護実習について事前オリエンテーションをお願いしたいのですが、授業のない日時が〇月〇日〇曜日の〇時、〇月〇日〇曜日の〇時、〇月〇日〇曜日の〇時ですので、できればいずれかの日時でお伺いできればと思っています。  
後ほど確認の電話をさせていただきますので、ご検討いただけますようお願いいただけないでしょうか。  
後ほど連絡する時間ですが、何時頃であれば担当の方はご都合がよろしいでしょうか。
- ⑦ **(最後に)** ありがとうございました。今後ともご指導いただけますよう、宜しくお願いいたします。失礼します。

### 2 事前にオリエンテーションを受けない場合(居宅の場合のみ)

- ① 電話をかける前に確認すべき事項を準備すること
  - ・「事前オリエンテーション用紙」にわかることは先に記入すること。また、確認する項目にチェックを入れておく。
  - ・「施設の概要」の用紙、もしくはこの要綱のページをすぐに出せるように準備する。
- ② **(10時までは)** おはようございます。**(10時から18時まで)** こんにちは。**(18時以降)** こんにちは。

私は宇都宮短期大学 人間福祉学科 介護福祉専攻の学生で〇〇〇〇と申します。〇月〇日からお世話になります介護実習の件でお電話しました。

③ お忙しいところ恐縮ですが、担当の方はいらっしゃいますか。

④ **（担当の方が電話に出たとき→担当者名前を控える）** →②を繰り返す

実習初日にオリエンテーションをしていただけると先生より指導を受けたのですが、よろしいでしょうか。

それでは何点か確認したいことがあるのですが、今お時間をいただいてもよろしいでしょうか。ありがとうございます。→「事前オリエンテーション用紙」をもとに項目に沿って確認する。

⑤ それでは〇月〇日〇曜日の〇時にお伺いします。

⑥ （最後に）今後ともご指導いただけますよう、宜しくお願いいたします。ありがとうございました。失礼します。

## 資料 4

### 追実習・再実習について

#### 1. 追実習

- (1) 病気、忌引き、その他の理由で欠席・遅刻・早退した場合
- (2) 遅刻・早退：半日以上の場合、1日施設で補習実習を行う。  
半日以内の場合、施設の指導者と相談の上決める。

#### 2. 追実習の方法

- (1) 時期：夏期休暇、冬期休暇、春期休暇、その他休日等、  
欠席等の日数により実習期間内で調整することもある。
- (2) 場所：実習施設
- (3) 内容：実習先の指示に従う。
- (4) 評価：実習指導者、担当教員が行う。

#### 3. 再実習

- (1) 施設実習における総合評価でD評価を受けた場合、または実習停止となった場合

#### 4. 再実習の方法

- (1) 時期：夏期休暇、冬期休暇、春期休暇、その他休日等
- (2) 場所：学内及び実習施設（補習の内容によって）
- (3) 内容：評価項目に準じ行う。
- (4) 評価：実習指導者、担当教員が行う。

#### 5. 追実習および再実習における施設との連絡調整は担当教員が行う。

## 手紙に関する基礎知識

実習終了後、実習先でお世話になった利用者の方々や指導者及び職員の方々へ感謝の気持ちを込めてお礼状の手紙を書く。お礼状は、実習終了後 1 週間以内に出す。

手紙文の基本的な書式は前文・本文・末文・後付けという順序で構成されている。このうち前文・末文・後付けなどは定型的なものであるため、既成の慣用句を適切に用いるとよい。とくに、儀礼的な挨拶状は、何よりも形式が重んじられるので自己流に変わった文章を書くよりも、儀礼文として型どおりの形式にそった文面を作成するのが無難といえる。つまり、社交儀礼用の文章となるとそれなりの格式が必要とされるが、なるべく既成の文例などを参考にして書くことが望ましい。

## ☑手紙の基本的な構成

前文	本文	末文	後付け	副文
頭語 時候のあいさつ 安否、感謝のあいさつ	起辞 主文	結びのあいさつ 結語	日付 署名 宛て名・敬称 脇付け	追伸

## ☑書簡用語

## 『頭語』

- ・往信：拝啓・謹啓・恭啓・拝呈・啓上
- ・返信：拝復・謹復・謹答・拝答・復啓
- ・前文省略：前略・省章・略啓・冠省（目上の人に対しては失礼になる）
- ・副文：再伸・副伸・追伸・二伸・追啓・追白（吉凶事や目上には副文を書かない）

## 『結語』

- ・草々 早々 不一 拝具 恭具 敬具 敬白 謹白 再拝

## 『頭語と結語の対応』

- ・頭語は省略しても、結語は書くのが礼儀
- ・拝啓－敬具、 謹啓－謹言 前略－草々

## 『時候』

月	月別時候の言葉
1 月	初春、新春、年頭、厳冬の候、大寒の節、厳寒のみぎり、寒気きびしく、春寒、酷寒
2 月	晩冬、残冬、立春、残雪、残雪の今日この頃、春雪もはかなく
3 月	早春、浅春、梅花の節、春寒ややゆるみ、風まだ寒く、春とはまだ名ばかりの寒さ
4 月	春暖、陽春、若草もえる季節、春光あまねく、行く春をおしみ、春たけなわ
5 月	残春、立夏、惜春、晩春、薫風、新緑若葉に映えて、吹く風も夏めいて
6 月	初夏、向暑、梅雨、暑気日ごとに加わり、初蟬の声きく頃、漸く農繁の季節となり
7 月	盛夏、酷暑、猛暑、大暑、盛暑、暑さ厳しく、夕風の涼味うれしく
8 月	残暑、晩夏、暑さなおさかん、立秋とは名のみ、青草をむすような強い日差し
9 月	初秋、新秋、新涼、白露の節、一雨ごとに涼しく、虫の音も美しく、秋の夜長く
10 月	仲秋、秋涼、秋冷、秋晴、時雨、読書の季節、スポーツの秋、紅葉もそろそろ見ごろ





